

平成30年度 明石市議会文教厚生常任委員会 議会報告会実施報告書

| | | |
|----------------|---|--|
| 開催日時 | 平成30年11月20日(火) 午後1時30分～午後3時30分 | |
| 開催場所 | パピオスあかし 5階 多目的ルーム | |
| テーマ | 明石の今後の保育について | |
| 出席議員 | 委員長 | 三好宏 |
| | 司会者 | 寺井吉広 |
| | 記録者 | 尾仲利治、出雲晶三 |
| | その他 | 丸谷聡子、尾倉あき子、松井久美子(以上、文教厚生常任委員) 坂口光男、佐々木敏(以上、議会活性化推進委員) |
| 参加人数 | 明石保育協会 10名 | |
| 傍聴人数 | 7名 | |
| 報告内容 | ○議会報告 ・先進事例(秋田市)及び市の保育に関する政策について(丸谷副委員長) | |
| 主な意見・提言 と応答 | ○意見交換 ① 待機児童解消に向けての取り組み ・保育協会：明石に転居してきた神戸市の保育士が明石市の保育士のような加点がなく、保育所に入れずに困ると聞いている。せっかく明石市は子育てしやすいまちと聞いて転入しても、結局待機児童になるなら、逆に子育てしにくいまちなのではないかとも思う。 また、自分の経営する保育所の近くに、新しく認定こども園が出来た。以前だったら、暗黙のルールで一定程度距離をあけて作っていたはずだが、最近乱立しているように感じる。今は良いが、10年後、20年後、少子化が進んだ場合どうなるのかとても心配している。保育士の雇用を守る立場なので、少子化が進んで保育所が淘汰されていくことが心配だ。 ・寺井委員：待機児童数が日本一の現状で、とにかく子どもたちの居場所を確保するため、今はこれが正解と思ってやっているが、10年後、20年後に、保育所の運営、保育士の職の確保、子どもの居場所についてどうなっているかは考えておかないといけない。将来的に子どもが減ってくるのは間違いなく、明石市は、公立の保育所を調整弁として縮小すると言っているが、それについてどう思うか保育協会の意見も伺いたい。 ・出雲委員：現状では、まだまだ保育所が足りないと思う。また、2人や3人の子連れ夫婦が目につくようになった。そのような形の子育て世代がふえたら、地域が、日本が活性化すると思う。保育所の経営状況が安定したものであるように、我々も気を付けて見続けたい。 ・保育協会：10年後、20年後を考えていく中で、子ども・子育て会議がなくなった代償は大きい。代替の組織ができているが、民間の法人が一つも入っておらず、我々の声をあげる場所がない。行政だけで施策が決められていくという印象がある。子ども・子育て会議では、5年、10年先の施策はそこに一旦全部あげておくルールがあった。議会は、子ども・子育て会議に代わる我々とのコミュニケーションの | |

場を作ってもらえるのか。例えば、保育士確保プロジェクト委員会では、展開する施策に民間の意見も入っているため、説得性がある。このことは行政側にも良い話であると思う。具体的に動いていただきたい。

10年後、20年後の絵を描いておく必要があるが、見えてこない。現状は待機児童がいるため、どんどん新設園を作っているが、将来子どもが減った時を見据えてどんな絵を描いているのか。口頭では、公立の保育所を調整弁として減らしていくという説明があるが、具体性がない。

・丸谷委員：子ども・子育て会議がなくなることについては、同じことを思っていた。あれほどしっかりと議論ができる場合は、他にはない。本市では中核市になってからなくなったが、同じく中核市である西宮市では今でも残っている。本年3月の本議会でも指摘したが、あのような議論のための場ができたらいと思う。

・保育協会：子どもの預け先の問題は、市民にとっては切実で、子どもが生まれてすぐ、保育所に見学に来られる方も多い。特に、0～2歳の保育は、同居の両親などにも頼みづらく、預ける先がないと働けないため、市民にとって切実であり、実際、待機児童の数も多い。また、子どもが1歳になるまで育休を取れるのに、保育所入所が難しくなるからといって、育休を早期に終了し、4月から復帰される方も多く、せつかくの育休が生かされていない。

こうした現状に対し、明石市には、できることはすべてやってもらっている印象はあるが、もう少し効率的なやり方もあるのではないかと。

自分の園では分園を設置して、現在65名程の0～3歳児を保育することができている。分園の設置促進は有効な施策だと思うが、なぜ進まないのか。

また、幼稚園での預かり保育は、在籍する園児や校区内の児童のみが対象となっており、市民が切実に困っている0～2歳を預かることができていない。

既存施設や公的施設の活用や、幼稚園の活用による待機児童対策の促進をもっと進めてはどうか。

・尾倉委員：分園の設置については、受入れ側の反対でスムーズにいかないことがある。各園での理解が進めば、設置が進んでいくものと思う。

育休制度を生かし切れていないことについては、いろんところで話を聞いている。さまざまな制度の活用や、企業への協力についても、しっかり声を上げたい。

② 保育の質の低下を防ぐために

保育協会：保育所に見学に来る保護者の方の意識や知識が高くなってきたと感じている。発達段階にあわせて正しいルールの下で保育すると、自分で考える基礎ができ、将来非常に役に立つので、良い傾向である。

子どもの発達や能力獲得の形態は、各年齢で全く違うため、適切な環境を子どもに与え、適切な保育を行えるようになるためには、理論と実践を学び、臨床しながら、非常にレベルの高い経験が必要であり、保育士を養成することは2年や3年では無理である。保育士のレベルを上げるということは大きな課題である。

新設の保育所は保育士の確保に苦労されているようだ。というのも、ベテランの保育士は既にどこかに所属しているため、保育士を確保しようとした場合、休職中の潜在保育士しか選択肢がない。しかし、潜在保育士の方は、保育の現場を数年離れているので、課題がある。

養成も大きな課題である。明石市は研修体制も良いが、外部研修に出れるのはせいぜい1、2名である。そこで、外部研修を受講した人が他の人に教えるよう工夫

している。また、講師を保育所にお呼びして、午睡の時間などに講義してもらったりしている。

また、日本では、まだ保育士の社会的地位が低い。保育士の社会的地位が高くなり、プライドを持てるようになれば、保育士もふえてくるのではないか。そのために、保育士の社会的地位の向上に向けたPRを行政の側で、国を挙げてしてほしい。

(保育士の質に関するアンケートをその場で実施)

- ・明石の保育の質は変わっていない又は上がったと思う 4人
- ・明石の保育の質は落ちたと思う 5人

松井委員：先日、兵庫大学で、再就職の支援のため、潜在保育士や介護士などに教育・研修をして質を上げ、現場に戻る実態を見てきた。

研修も各園から1、2人しか行けないという現状がある。人も時間も足りない中、もう少し高度なリカレント教育を国が真剣に考えてほしい。地方議員として今日お聞きした内容については声を上げていきたい。

千葉県柏市では、高齢であっても、元気な方には、どんどん保育の現場に戻ってもらっているようだ。本市でも、元気な方には、もっと活躍してもらってはどうか。保育士は聖職であるということ、現場で声を上げていきたい。

寺井委員：保育士の質の確保は本当に難しいと思う。保育所がふえて、保育士を緊急に確保しなければいけなくなったが、中には保育士としての資質に問題があって、各園を転々としている人もいるという話も聞いている。また、新人保育士ばかりでは、保育所の運営はできない。

明石市では、処遇改善などできるかぎりの助成を進めている。また研修も実施している。しかし、保育士が働こうという気になるためには、家庭・社会の環境をトータルで整えていかないといけないと日々思っている。対策は急務であり、ゆっくりはできないが、今がピークだとも思う。

保育協会：途中開園のため、保育士確保にかなり苦労した。なんとか確保できたが、選びたくても選べないという実感だ。

実習で来る学生も、意識高い方と、そうではない方がいる。

行政としても、数字に目がいくので、潜在保育士がこれだけいるのだから、現場復帰してくれれば待機児童の解消につながると思うのかもしれないが、実際には採用に足る人材は限られており、採用で選びたくても選べないということが現実である。

また、さらに新しい園ができて、保育士の取り合いが進んでいるので、採用に当たって一定の経験を求めても、それだけでは質の低下は防ぎようないところがある。

現在の7年間で150万円という補助金は魅力的だが、8年目以降には、補助がなくなってしまう。8年目以降は、処遇改善Ⅱに当たるということかもしれないが、2つの制度の狭間の世代で、加算されない人も膨れ上がっている。もっと全体のことを考えてほしい。

尾仲委員：保育の質は上がっていると思っていたので、生の声を聴いてショックを受けている。また、処遇改善で、プライドやモチベーションも上がっていると思っていたが、実のところはそうでもない部分もあると分かった。

近所の保育士は、みなさんずいぶん若いという印象を受ける。保育には力が要するため若い方を採用しているということなのか、それとも経験者を採用したいが応募

がなく、とにかく人数を確保することに徹しているのか、気になるところだ。

③ 保育士の確保について

保育協会：保育士確保と質の低下、待機児解消もすべてつながっているテーマである。

保育士確保の前提として、定着を考えている。市が行う処遇改善のほか、園としてもモチベーション上げるため、若手保育士に色々な策を行っている。しかし、精神論だけでは定着は進まず、離職していく方がいる。そこには、諸々の理由がある。

県の保育協会や明石市のサポートセンターで就職のマッチングをしているが、園の理念に共感できる人に巡り合いたいと考えている。民間の人材紹介業者が、人材のストックをかなり持っているが、高額な費用が必要となることがあり、複数採用の場合、結構な負担になる。

保育士の数についても、研修に出るときには他の保育士が保育しなければならないし、保育士自身も自身の子どもの熱などでお休みされることもあるため、法定の定数よりも余裕のある職員配置をしていかないといけない。そうすると、法人の負担もふえる。

園がふえることもいかなものかと思うこともある。保育士確保の努力がどんどん必要となっている時代。運営法人にとってはコストが必要な時代になった。

保育協会：人材紹介業は、確かに依頼したらすぐに採用できる。しかし、本市の需用が多くなり、紹介費用が高騰している。採用に困って、すべて紹介してもらったというところもあると聞いている。

国が、保育士の収入を3割上げるために投入した税金が、そのような形で民間事業者に戻っているという現状がある。また、そうまでして採用した保育士の定着率については、知る範囲ではよくない。

出雲委員：保育士を選べない、取り合いであるということからすると、質云々の問題ではなくなってきたように思う。紹介業者を利用せざるをえないことで、多額のコストがかかるのは大変だと思う。今までの市の政策で、はたして良かったのかどうか疑問が生じる。また、国が3歳～5歳の幼児教育・保育を無料にするということから、さらに大変となることが予想される。

大規模保育所については、運営主体が遠方にあたりするが、保育の質の確保は大丈夫なのか。

保育協会：それは、運営する法人による。しっかりしているところもあれば、よくわかってないところもある。

処遇改善はありがたいと思うが、定着のための150万円などはベテランには当たらない。自分の園は、20年、30年の経歴の職員がたくさんおり、若い職員には当たるものでも、当たらないことがある。他の処遇改善ではみんなと同じようにするので我慢してほしいと言っている。分配については各園の裁量にらせていただけたらと思う。

保育協会：処遇改善のための助成金は有効である。職員も大変喜んでいる。

また、明石市では、兵庫大学との連携で、近くで研修をしていただいているが、もし都合のあう研修がなければ、土日まで使って、新幹線や夜行バスに乗って遠くまで研修に行っている職員もおり、自分のキャリアを上げるために非常に頑張っている方が多いという印象だ。

処遇改善Iのように、他の補助金も園長の裁量で分配できるようになれば、必要

な人の所得を上げることができ、新卒や男性保育士もたくさん入ってくるのではないか。保育士に両方の性が揃っていることは園児にとっても有益である。また、収入が改善されることで、生涯にわたって保育の仕事に携わろうという気にもなる。人材確保に悩んでいるのは確かだが、処遇改善のための補助金は、ないよりあるほうが良いと思う。

保育協会：人材確保について明石市は成功していると思う。また、新設園をつくることから、保育士の待遇改善、保育士を呼び込むことまで、短いスパンの政策については、すべて成功していると思う。周辺自治体からも、明石市はすごく注目されているし、就職フェアの参加者も加古川では20人程度だったのが明石では100人程度だったりして、他の自治体からすると保育士を取られているという感覚が強いようだ。

処遇改善のための補助金の分配の仕方などについては、国の制度の縛りがあることもあり、行政の現場ではいかんともしい難い部分があるのはわかる。しかし、今の施策は、喫緊の課題の解決の必要に迫られた、行政サイドの短期的な視点で行っているため、民間サイドの、長期的な視点が欠けているように思う。きょう出席しているメンバーは、10年後、20年後も保育所を運営する立場にあるので、こうした現場の声を吸い上げる仕組みを検討してもらいたい。

保育協会：保育士確保プロジェクトに参加させてもらって、当時、大阪の橋下市長が新人保育士に20万円支給していたときに、さらに10万円を加えて30万円支給することを提案し、その意見を実現してもらった。

今年、自分の保育所でも新卒を4人採用したが、加古川在住の方が来てくれた。やはり10万円に魅力を感じてきたようだ。就職フェアでも待遇について学生がよく質問されているようだし、大学の職員もそこが言いやすいということで、明石に学生が流れているということを聞いている。

今は、教育実習生が毎月1人か2人いる状態であるが、今のところ採用したいという学生に巡り合っていない。また、採用後すぐに仕事を任せられるようになるわけではない。

第2子以降の保育料の無償化により、延長保育の時間がとても長くなってきている。延長保育の料金は、1回預けても10回預けても1か月3千円だから、長く預ける方が多くなってきている。

保育士が足りない中で、明石市のマッチング事業は好調に推移し、70数名を確保できたということだが、その方々は、小さい子どもがいることからパート勤務の方が多く、7時から9時までや、16時から19時までの時間帯は足りていない。また、0歳児は3人に1人、1、2歳児は6人に1人の保育士で預かることができるとされているが、新人には、まだその数で任せられない。そのため、どうしても保育士が足りないという状況にある。

そこで、何か活用できる補助金がないかどうか厚生労働省に尋ねてみたところ、保育体制強化事業と保育士補助者雇用強化事業というのがないと説明を受けた。

それは、保育士の資格がなくても子育て支援員等の必要な講習を受けた方を雇用する場合や清掃業務や遊具の消毒、給食の配膳、寝具の用意、片付けなどに関わる保育士の業務軽減を行う事業を行う場合に補助される制度で、市の負担は4分の1ということだった。

保育士の資格ない人が保育をすることが良いとは思わないが、教育ではない時間、例えば朝の送り込みの時間や夕方のお迎えの時間などについては、活用の余地はあると思う。しかし、こうした資格者以外の方の雇用に対する補助制度は、市が実施

しない限りは使えないということなので、ぜひ検討していただければと思う。

寺井委員：働く女性がふえ、朝7時～夜7時の勤務の方もふえていると聞く。保育士についても朝早く勤務できる方を雇用するなどいろんな形で工夫していただき、市としても要望もしていきたいと思う。

また、市が支給している処遇改善のための支援金について喜んでいただけると聞いてうれしい。処遇改善の2分の1は園の負担となるということなのだが、園にとって負担となっているのか。

保育協会：自分のところは、元々人件費が高く、全体的に下げようとしているところだったので、こうした処遇改善で他の保育所が給料を上げるとなると、他の保育所では給料が上がっているのに、どうして自分のところは下がっていくのかと職員から苦情がくる。ただ、処遇改善をしたい保育所にしてみたら、この補助金は有効活用されているところだと思う。

保育協会：自分ところが1万円を出せば、市が1万円を出してくれるということなので、苦しくても出している。保育士同士は同業者の繋がりなどもあるので、自分のところだけ出さないというわけにはいかない。

ただ、補助金の使い方、分配の仕方について細かい条件があるので使いにくい。行政に信用されていないのかなと思う。分配に苦労しているところだ。

保育協会：人件費を考えることが一番難しい。処遇改善のための補助金についても、与えてあげたい職員には与えることができない。任せてもらえない。分配する側からすると非常に大変だ。

個人的な意見になるが、いっそのこと運営費と人件費を切り分けて、市が勤続年数などに応じて一律に人件費決めて、補助するという形をとってもらうのはどうか。それなら楽で良い。市の負担が大きく、あまり現実的な方法ではないだろうけど。

④ その他（大規模園の影響について）

保育協会：保育所が大規模になると、子ども一人一人の発達にあわせて適切な環境を整えるという保育の本質がないがしろになるのではないかと心配している。駐車場がたくさんあるとか、本庁エリアの子どもをバスで運ぶとか言っているが、大人の都合の計画であり、子どもの心をどこかへ置き去りにしてしまっているのではないか。

また、小さい園では駐車場の確保に苦労しており、広げることは不可能。自分の園でも、見学者が多く、1回に15～16人くらいが見学に来て、駐車場がいっぱいになる。すると、ここに車を置いて仕事行けるのかとか質問が出るが、とてもそんな余裕はない。これも大規模園で行うパークアンドライド政策の影響ではないか。

人材紹介業者は、市のサポートセンターができてからはすべて断っている。去年は、人材紹介業者からの紹介で保育士を2人確保した。税金が紹介料という形で流れてしまうのはいかがなものかと思った。しかし、そうまでして採用した保育士が、1年で辞めていってしまった。

保育協会：保育所は小学校との連携が苦手で、できていない部分もある。小学校と幼稚園の間には校区ユニット会議があり、ここで連携できている。何かいい方法はないのか。

以前、ある小学校に音楽会を見学に行きたいと電話したことがあり、来てもいい

| | |
|--|---|
| | <p>とのことだったが、あまり歓迎されていないように感じたことがある。</p> <p>保育協会：きょうは、議員に話を聞いていただいて、思いも伝えられて、少しはわかっていただけたのかなと思う。今後も、またこういう機会をもってもらえたら、ありがたい。</p> |
|--|---|

明石市市議会議長 穂原 成人 様

平成30年12月10日

上記のとおり報告します。

常任委員長 三好 宏